

第2回狛江市基本計画策定第二分科会会議録

- 1 日 時 令和元年6月20日(木)午後7時～8時51分
- 2 場 所 狛江市役所4階 特別会議室
- 3 出席者 委員長 杉浦 浩
副委員長 富永 和身 副委員長 馬場 健司
委 員 五十嵐 秀司 委 員 成井 篤
委 員 後藤 千尋 委 員 清水 満
委 員 橋本 研 委 員 平山 達郎
事務局 池田企画調整担当主任 佐々木企画調整担当主任
- 4 欠席者 副委員長 五十嵐 太一
- 5 議 題 1. 施策の現状と課題について(7 自然を大切にし、快適に暮らせるまち)
2. その他
- 6 会議概要

議題1 施策の現状と課題について(7 自然を大切にし、快適に暮らせるまち)

委員長 それでは、ただいまから第2回狛江市基本計画策定分科会第二分科会を開催する。

大変僭越ながら分科会長を仰せつかったので、自己紹介をさせていただきます。私は今、東京都建設防災ボランティア協会の顧問を拝命している。それが現在の主な仕事であるが、それ以前は、40年近く東京都の都市計画行政に携わってきた。その関係で、狛江市都市計画審議会の委員を10年近く務めている。また、第3次基本構想や第3次基本構想前期基本計画の策定にも携わった。狛江市は、全国で2番目に狭い市であり、東京を流れる2番目の長大河川の多摩川がある。私が若い頃は、河川等は都市計画において制約条件があったが、今は世の中が変わり、貴重な資源として位置づけられている。その多摩川に市域の多くが面していること、また、小田急線という関東有数の私鉄が市の中心部を通り、駅が3つ存在していることは、大変大きな意味をなしていると考えている。総合基本計画審議会の中で将来都市像について議論をしたが、やはり多摩川の存在なくして狛江は語れないだろうということで、「水と緑」という言葉が残った。また、ユニークな市でありながら、狛江らしさというのがやや欠けているのではないかと、また、その狛江らしさを醸成するために、風土的なものから芽生える文化というものが必要ではな

いかという議論があり、新たに文化という言葉が加わった。このような議論の経過を考えると、環境、都市活動、文化活動といったことは、多摩川と鉄道3駅を中心に練り広げられるのではないかと考えている。新たな将来都市像の達成のために、この分科会では、環境、都市基盤、地域振興という非常に大きな要素について議論をするわけだが、「狛江らしさ」の根幹となる、重要な土台部分となるのではないかなと考えている。そういった意味で、それぞれの分野のみならず、分野ごとの相乗効果により、「狛江らしさ」を醸成できれば良いと考えている。それでは、本日の資料について事務局から説明をお願いします。

－事務局から資料説明－

委員長 それでは、ただいまから議論に入る。

富永委員 市のこれからを考える上での確認だが、和泉多摩川緑地の都立公園化を前市長は公約としていたと思うが、現市長が就任して、その方向性はどうなったのか。

事務局 現市長のもとでも、和泉多摩川緑地の都立公園化という方向性は変わっていない。

委員長 後期基本計画の体系図が、そのまま次期基本計画に移行されるわけではないという理解でよろしいか。

事務局 そのとおりである。

馬場委員 現在、環境基本計画の改定等に向けて議論をしているが、今回の資料の内容は、その内容とある程度リンクしているという認識でよろしいか。

事務局 そのとおりである。本資料は、現基本計画の体系図に対して、現状や課題を落とし込んでいる。

馬場委員 私が携わっている環境分野について、例えば5ページに緩和策と適応策と書いてあるが、ここは本当に最新の情報が書いてある。また、各部署と連携して推進していく必要があるという課題について明記されているということは、非常に良いと思う。

一方、温室効果ガス排出の削減目標について、令和2年度で25%削減を目指すとなっているが、これは未達になると思う。そのため、目標を達成するための努力のようなニュアンスが入っていた方が良いと考えるが、その辺りの文言については環境政策課と調整をしているか。

事務局 現時点では調整に至っていないが、本格的に基本計画の施策の方向性の議論の際には、文言についても担当課と調整してまいりたいと考えている。

五十嵐秀委員 現在、まちづくり委員を務めており、マンション紛争に係る調整等を行っ

ている。先日は、新しくできるワンルームマンションが民泊になるのではないかという話もあった。今まさに民泊というものが大きな話題となっているが、そういった視点も入れていくべきだと思う。

委員 長 民泊に対しては市として何か対応を検討しているのか。

事務局 庁内委員会を設置しており、その中で民泊に対する考え方、施策等を整理している。

委員 長 民泊を営業するために、市で例規を制定する必要があるのか。

事務局 市で例規を設置する必要はない。保健所を持っていない自治体については、東京都の条例が適用される。

委員 長 空家については、条例を制定しているのか。

事務局 制定している。

富永委員 資料によると、市全体の1割以上が空家ということか。

事務局 空室も含めると、1割以上となる。

五十嵐秀委員 空家の利活用について、何か具体的に考えているのか。

事務局 空家についても、庁内委員会を設置しているが、具体的な利活用の内容の決定までは至っていない。

五十嵐秀委員 都心から近いという利点があるので、例えばベンチャー企業を立ち上げたいという人を呼び込んだり、市が補助金を出したりする等、市の活性化につながる仕組みが必要だと思う。

事務局 空家等に関しては、狛江市でもこういった行政需要が増えているということに鑑みて、新たに住宅関連の部署を設置する等、力を入れて取り組んでいるところだが、現時点では、特定空家への対応や空家の抑制といった点に重きが置かれている。

後藤委員 もし一軒家でリノベーションが自由にできて、家賃も抑えられるのであれば、自分だったら興味を持つと思う。

五十嵐秀委員 なかなか借り手が見つからないような物件について、費用は全部住む人が持つ代わりに自由にリノベーションしても良いことにすれば、ギブ・アンド・テイクの関係ができる。そのような仕組みを市が構築して、機運を盛り上げていければ良いと思う。

後藤委員 私は3月に狛江市に引っ越してきたばかりだが、狛江市は自転車が乗りやすい地形であるため、すぐにロードバイクを購入した。そして、多摩川沿いを実際に走ってみたのだが、道が狭くて非常に怖かった。急に道を広くするのは無理なのかもしれないが、もうちょっと走りやすい環境にする等、自転車にフォーカスした取組をしてみたいか。

委員 長 狛江市では、自転車施策については駐輪対策しかやっていなかったと思うが、シェアサイクル等については検討をしているのか。

事務局 具体的な検討には至ってはいないが、建設環境常任委員会の所管事務調査の中で、シェアサイクルが取り挙げられたことはある。調布市では、民間と連携してシェアサイクルのスポットを設置する等、取組を進めているようだ。

委員長 世田谷区や調布市といった近隣自治体と連携すれば、そういった施策の推進も可能になると思う。また、そのためにも水道走路といった道路の整備は必須であると考えます。

事務局 従来のシェアサイクルは、狛江市内で借りたら狛江市内でしか返せなかったが、広域的に世田谷区や調布市と連携できれば、観光施策にもつながる可能性がある。

委員長 あえて観光に限定する必要はないのかもしれない。

また、多摩川のサイクリングロードで気になったのが、走っている途中で休憩ポイントや買い物をすることがない。

五十嵐秀委員 狛江には自転車利用に適した土壌があるような気がするので、「自転車環境モデル都市」のような、自転車が利用しやすく、環境にも優しい、そんなコンセプトがあるとイメージアップにつながると思う。

委員長 私が以前河川の仕事をしていたときに、多摩川に上下流交流会というものがあって、多摩川沿いの市町村が都道府県の垣根を越えて交流をしていた。多摩川があるということは、そういった交流にもつながると思う。

橋本委員 昨今シェアリングエコノミーという言葉が取り挙げられているが、狛江市は小さい市なので、自転車に限らず、空家をシェアする等、シェアリングエコノミーに市全体で取り組んでいくことができたなら、若者への訴求力が高まるように感じる。例えば、空家を事務所としてをシェアして使ってもらおうというのも一つの案だと思うの。

また、道路の話になるが、街路樹が見るも無惨な剪定をされていることがある。そういうところにも気を使っていけば、街並みもきれいになっていくと思う。

委員長 沿道に商店や看板があるところでは、枝が茂るとお店や看板が見えなくなるため、剪定をきめ細かくしてくれという要望もあり、なかなか調和をとるのが難しいことがある。また、街路樹の剪定は、交通整理を含めとても費用がかかるため、街路樹の管理者としては、剪定は回数がかさまないようになるべく大胆にしてほしいというのが本音である。街路樹というのは、まちの風格や美観を大きく左右するものであるが、そういった側面もあるため、何が一番最適かを決めるのは難しいところがある。

五十嵐秀委員 狛江市はコンパクトな分、実証実験等の実施に当たって、合意形成がしやすいというメリットがある。そのメリットをいかし、都市モデルになるような、先進的な取組ができると良いと思うし、市民も誇りに思うのではないかと。

行政や市民だけではできないことでも、金融機関等様々な関係機関と連携することで可能になることもあるかもしれない。

また、農地の保全についても触れてほしい。農地の宅地化が進行している状況だが、それを緑地保全という意味でも守っていく必要があると考える。新たな農地の活用に係る仕組みを導入して、農地の貸し手側と借り手側の双方にメリットがあるようにする必要があると考える。

後藤委員 農作物の直売所を見かけることはあるが、その野菜を使って料理をつくっている飲食店は少ないように感じる。

富永委員 狛江産野菜を使っている飲食店もあるが、大々的にPRはしていないかもしれない。

後藤委員 うちは共働きののだが、新鮮な野菜を直売所等で買いたくても、仕事が終わって狛江に帰ってくる頃には販売所は閉まっている。何か別の手段で購入できれば良いのだが。

富永委員 いくつかのスーパーにも狛江産野菜を卸しているが、狛江産野菜については、前日の夜か当日の朝に採って、その日のうちに売り切るとというのが基本である。農家も、午前中に売り切れる量を出すような傾向があるかもしれない。

五十嵐秀委員 地方だと、道の駅で農家の方が野菜を売っていることがあるが、そういった工夫があっても良いと思う。

後藤委員 狛江はベッドタウンなので、夕方や夜に狛江産野菜があつたら買いたいという人は多いと思う。

橋本委員 高知空港では、空港で野菜を販売しており、出張にきた方も新鮮な野菜・果物を買って飛行機に乗りこめるようにしている。狛江であれば、それは駅に当たると思うので、例えばサラリーマンが帰ってくる時間帯に野菜を販売すれば、良い売り上げになると思う。

後藤委員 それができれば、あっという間に売り切れてしまう気がする。

五十嵐秀委員 スーパーで普通の野菜と狛江産野菜の両方が置いてあつたら、ちょっと高くても狛江産野菜を買う人は多いと思う。そういった取組を通じて、農業の活性化を図っていくことが、農地の保全にもつながっていくように思う。

委員 長 都市農地の保全というのは、突き詰めると、都市農業の振興であると思つづくと思う。

成井委員 多くの市民が熱心にいろいろやっているが、その熱意がいろいろな方向を向いしまっているため、目立ちにくいのもかもしれない。そこで、例えば駅前で野菜売り場を一つにまとめる等、売りとなるものを点在させのではなく、凝縮してアピールしていくことが良いような気がする。多くの方が熱心に取り組んでいるが、それがどうにもまとまり切らないことにジレンマを感じる。

それを一つにまとめることができれば、もっと強い推進力が生まれるような気がする。私の家の近くには無人の野菜の直売所が点在しているが、なかなか見つけにくい。それをまとめることができれば、すごく魅力的なものになると思う。

後藤委員 あとは、営業時間帯が問題ではないか。

成井委員 営業時間帯と場所が問題だと思う。

委員 長 駅周辺にあれば、仕事帰りに寄れるというメリットがある。例えば、狛江駅の改札前で販売できれば、売り上げは伸びると思う。

事務局 イベントの際にえきまえ広場等で狛江産野菜を売ると、毎回長蛇の列ができる。

委員 長 コンスタントにつくってコンスタントに売れるという仕組みが確立されれば良いが。農地の話から野菜の話に傾向してしまったが、生産緑地の話も大変重要である。都市計画審議会の中でも常に議論に上がるが、どんどん減ってきており、何かしら対策は打たなくてはならないように感じる。狛江市には、市民農園はあるのか。

事務局 市民農園はあり、多くの市民に応募をいただいている。

委員 長 市民農園を開設したいという農家の要望には応えられているのか。

事務局 市民農園の提供を随時募集しているが、農園数は伸び悩んでいる。

富永委員 法改正があり、生産緑地についても市民農園として利用できるようになったことから、農地を貸し出したいという農家はこれから増えてくるのではないか。

後藤委員 市民農園はどこ自治体でも需要はあり、私が以前住んでいた自治体でも、常に応募者多数のため、抽選で決定していた。

五十嵐秀委員 狛江では私も何回か市民農園の応募をしたことがあるが、全て外れてしまった。

平山委員 狛江の農地は年々減っているのか。

富永委員 年々減っており、増えることはまずない。

委員 長 市民農園として貸し出すことの一番の目的は、財産保全だと思う。それでその農地が維持できるのであれば、所有者側にも借り手側にも得があって良いことだと思う。

平山委員 狛江市には、小さい農地がたくさん点在しているが、それを集約して大きくするという事は難しいのか。

委員 長 個人の資産を動かすというのは、税金の問題等があり、非常に難しいと思う。

後藤委員 農業に興味を持っている若者は結構いると思うので、狛江市民だけに限定しなければ、農業をしたいという人は集まると思う。

橋本委員 同感である。地方では、若者が漁師になったり、林業をやる等、第一次産業に興味がある若者は結構いるので、市民農園のように小さい農地を分割して何人にも貸すのではなく、一緒に野菜をつくりたいという人を募集してみてもいいか。そういったマッチングの役割を行政が担い、広く周知すれば、若者は集まると思う。

五十嵐秀委員 そういう若者が増えているという話は確かに耳にする。まさにそういう方で、狛江の農家の方が指導して、空き家を下宿先として貸してみてもおもしろいかもしれない。

後藤委員 狛江は地理的にも良いところなので、募集したら多数の応募があると思う。

平山委員 その場合は、農業の収入のみで生活はできるのか。

後藤委員 農業は副業になると思う。それか、先ほど話に上がったシェアリングエコノミーの一環として行うというのも一つの手かもしれない。

平山委員 個人的には、農地はどんどん宅地化すべきだと思っている。これからの人口減少社会の中で、人口を増やすための取組は必須だと思う。

後藤委員 宅地化を進めると、狛江らしさが薄れてしまい、逆効果になってしまう気がする。

平山委員 狛江の財政状況をみると、かなり切り詰めてやりくりしていて、非常に頑張っていると思う。人口がこれから大幅に増えることは考えられないため、何か抜本的な対策を考えないと、近隣自治体に吸収合併されてしまうかもしれない。とにかく、狛江市には文化施設がほとんどなく、それが非常に気になっている。もちろん、そういったところに予算をかけている場合じゃないという財政事情であると思うので、何か違う発想がないと、これからは自治体として生き延びることができないのではないかと思う。

橋本委員 世田谷区では、廃校の教室をクリエイターに貸すという取組を行っているが、狛江市でもそういった形で文化施設を作り上げていけたら良いと思う。

五十嵐秀委員 そういったシンボリックな施設が必要だと思う。

平山委員 将来性を考えると、若者が食いつくような柱をつくりたいところではある。

委員 長 若者の都市生活のイメージというのは、おそらく昔からだんだん変化していると思う。私たちの時代は、一生懸命に働くことが全てだったが、今の若者は、ゆとりのある日常生活を求めているのではないか。駅近傍に住んで、その周辺は公園や緑地、運動場が充実しているというのが理想的なコンセプトだと思うので、そのゆとりの空間として、都市農地ぐらいはあっても良いと思う。

平山委員 駅前ぐらいは高さ規制を緩和すべきだと思う。

委員 長 現状、狛江駅前が高層の建物はエコルマぐらいしかなく、非常にもったいないと思うので、次期基本計画の中では、駅周辺の整備というのは打ち出し

ていくべきだと考える。先ほど話題に上がったえきまえ広場は、今後どうしていく予定か。

事務局 イベント等に活用できるように、既に一定の整備をさせていただいた。施設を建設するという話もあったが、取り止めになった。

平山委員 えきまえ広場でイベントはどのくらい行っているのか。あまりイベントが行われているのを目にする機会がない。

事務局 整備以降、徐々にイベントの開催は増えてきている。

平山委員 イベント広場で大音量を出しても良いのか。

富永委員 音量が大きすぎれば、苦情がくる可能性がある。

事務局 駅前で音楽のイベントを開催しているので、主幹課との調整とはなるが、音が出るようなイベントをできないわけではない。

五十嵐秀委員 農作物を販売する等、有効利用する手立てを考える必要がある。

事務局 えきまえ広場の他に、和泉多摩川駅付近のぼかぼか広場をイベントが行える広場とすべく、市民を交えたワークショップを開催する予定としている。

五十嵐秀委員 ビアガーデンをやる等、そういった場所を活用して様々な取組を行うべきだと思う。

成井委員 駅というのは、人が集まる場所なので、そこを整備していくというのはすごく重要だと思う。

橋本委員 整備するといっても、大きい建物を建てれば良いということではないと思う。狛江駅を降りて、ロータリーがあつて、空が広がっていると、帰ってきたなと思うので、大きいビル等ではなく、今の空間をいかした整備ができればと思う。和泉多摩川駅にも喜多見駅にもロータリーがあつて、送り迎えで車をとめられる環境があるというのは、すごく便利だと思う。ロータリーがない駅は小田急沿線にもいくつかある。

後藤委員 新宿から電車に乗って、成城学園前駅を過ぎた辺りでどんどん空が広がってくるのがとても良いと思っているので、そこに高層の建物を建てるというのは個人的には賛同しない。

富永委員 狛江にとって、泉竜寺とその周辺の緑地保全地区の一带は宝だと思っているが、緑地保全地区については、月1回、限られた時間しか一般市民は入れない。緑地保全地区ということは理解しているが、あれだけの自然を月1回しか開放しないというのはもったいないと思う。

清水委員 現行計画の重点プロジェクトは、次期計画にも引き継ぐのか。

事務局 その辺りは今後整理させていただく。

清水委員 仮に今回も重点プロジェクトを設定していくのであれば、それ以外も全て解決すると読めてしまう基本計画をつくってしまうと、絵に描いた餅になってしまう気がする。今後施策を検討していく中で、基本計画が施策の推進の

足枷にならないよう、基本計画に全てを記載するのではなく、方向性だけを示したり、今後廃止することを明文化することが重要だと思う。本日は話題に上がった自転車の話もすばらしい話で、賛同できる部分も多々あるのだが、実際に基本計画をまとめる段階では、現状を考えて記載すべきである。

委員 長 実際の基本計画の策定に当たっては、御意見のとおり優先順位にのっとって整理をしなければならないと思う。本日はフリーディスカッションということで、どこに問題点があるか、どうしたら良い市になるかということについていろいろな意見をいただいたため、事務局はそれを整理して、体系化していただきたい。また、基本計画がそのまま予算になるわけではなくて、予算は予算でまた議会の審議を経て、取捨選択をするわけだが、この基本計画の中で重点項目に位置付けられたものについては、なるべく尊重して予算配分をしていくということになると思う。

富永委員 本日の分野に係る要望を最後に述べさせていただく。まず1つ目は、和泉多摩川緑地公園への都立公園誘致である。これは、防災面からも是非とも実現していただきたい。2つ目は、調布都市計画道路3・4・16号線の整備である。3つ目は、市内に点在する木造密集地域の解消である。

委員 長 私も、調布都市計画道路3・4・16号線だけではなく、道路の南北格差の解消が必要だと考える。調布都市計画道路3・4・16号線の整備とともに、道路をもう少し使いやすくするような取組が必要であると考えている。次回は、「3 活気にあふれ、にぎわいのあるまち」について議論を行い、第4回分科会で、第2・3回分科会で出た意見を取りまとめる。

議題2 その他

委員 長 その他特に意見等なければ、第2回狛江市基本計画策定第二分科会を終了する。